

令和4年度第1回フォローアップ委員会におけるご意見への対応状況について

令和4年9月20日

	項目	概要	基本的な考え方・対応策(案)
1	クールビズについて	○会場の空調が効きすぎており、上着が必要な状況。グリーン化の観点、電気の節約のためにも服装はクールビズで良いということを案内してほしい。	○クールビズ期間中に会議を開催する場合は、委員等への開催案内にドレスコードを明記するとともに、県側の出席者においてもクールビズの徹底を図る。
2	道路沿いの木の伐採	○道端の切り出しやすい立派な木が多くあるが、木材の価格が高いこのときに伐り出せないかと、前にも話をした。 ○知事会であるとか、議員団で、もう一步進めるように段取りをすとか、そういった形で伐り出しやすい木を伐って、出せるような制度を進めていただきたい。	○森林所有者の意向が前提になるが、伐採適期の森林で一定のまとまった面積が確保され、道路等への安全が確保できるなどの条件が整えば、皆伐や間伐などの施業により原木増産に取り組んでいただいている。 ○また、林業事業者に対し、林業適地については持続可能な施業を行っていただけるよう中長期的な事業計画についても協議していく。
3	仁淀川流域の道路等整備	○「らんまん」は五台山と佐川と越知の横倉山が主な舞台であるが、伊野から仁淀川沿いの上がって行く道がとても狭い。仁淀川の美しい風景があるところを道のせいで気持ちよく行けないし、周りの木が伸びっぱなしで、上から全く見えない。 ○そういった仁淀川の、伊野から越知、それから佐川というふうな、一つのラインをきれいに整備することはできないか。	○抜本的に道路を拡幅するには、相当時間と経費を要するため、当面、すれ違いの部分を拡張したいということで、土木部に対して要望をしており、土木部の方で中長期的な課題として検討している。 ○道路の安全のためという整備だけではなく、その景観の部分も合わせてということで、土木事務所などを中心に、伐採について要望していく。
4	移住	○各市町村に「地域おこし協力隊」がいるが、窪川などでもとても元気に活動されていて、頼もしく思うことがあるので、そういったところをうまく移住に生かせないかと思う。	○地域おこし協力隊については、移住希望者の関心も高く、令和4年9月1日現在で、32市町村225名の方にご活躍いただいている。国においても、さらに協力隊を増やすことを表明しているため、これに呼応した形で、引き続き取り組みを進めていきたいと考えている。
5	産業振興計画の見直しについて	○産業振興計画は着々と一歩ずつ歩みを進めている中ではあるが、世界的にも日本としても高知としても、大きな変化の時代にある ○高知は自然豊かで美しく良いところであることや、伝統的な手づくりでこだわれば大量生産はできないことなど、説明をしないと本当の価値をアピールできない。 ○施策の展開を、もう一度、原点に振り返って考える必要があると思う。	○産業振興計画を進めるにあたり、これまで本県の価値を県外や国外にアピールし、地産外商、観光振興、移住促進などの取り組みを推進してきたところ。 ○コロナ禍や物価高騰などの社会・経済構造が変化する中であって、県経済の持続的な成長を促進するという観点から、産業振興計画の見直し・バージョンアップを図っていく。
6	土佐酒の輸出	○日本酒の海外進出に際し、日本酒が美味しいという説明は十分行ったが、日本酒の管理方法について説明が不十分であり、戦略を練り直した経験がある。 ○ワインが日本に入ってきたときには、ワインセラーの重要性とワインを管理する方法までアピールがされていた。 ○これから本当においしいものを売るときには、十分な説明とどういう管理の仕方が大事なのかという説明、トータルブランディングも必要になると考える。	○輸出されている土佐酒は、温度変化に耐えやすい「火入れ」を行った商品であるが、主に純米吟醸酒等醸造アルコールを使用していないものであることから、管理方法が大事なことはご指摘のとおり。 ○このため、県内の各酒蔵は、日本酒に関する十分な知識を持ち、適切な温度管理の下で物流を行うことができる商社や卸会社を見定めて取引している。管理方法の説明は、現地の卸会社等からレストランや小売店等の販売先に対して行われている。

	項目	概要	基本的な考え方・対応策(案)
7	原油価格、物価高騰	<p>○稲作農家に対しての、何らかの補助はないのか。</p> <p>○米を作っている農家においても肥料、農薬などが上がってきていると思う。米価そのものはあまり高くなく、生産農家にとっては、全てのもののコストが上がっており、大変苦しい状況にあると思うので、その点で何らかの補助はないか。</p>	<p>○9月補正予算により、肥料使用量の低減に取り組む農業者に対して、令和4年6月～10月に購入した肥料を対象に、その経費の一部を支援する肥料高騰緊急対策を講じている。(稲作農家も対象となっている)</p> <p>○引き続き国や県内の動向を見ながら生産資材高騰に対する支援を検討していく。</p>
8	農業部会での意見について	<p>○主な意見として、「若い世代で就農している者もいるが、コロナ禍や原材料等の高騰で苦勞されている」というものがある。</p> <p>○このような状況の中でも若く、いきいきと頑張っていられよう方や苦しみながらも問題を解決して乗り越えた方を紹介する場なども用意すれば、新たな就農につながるのではないかと思う。</p>	<p>○データ駆動型農業による営農支援により、生産コストが上昇する中でも、収量を上げることで経営安定を図る取り組みを強化していく。</p> <p>○頑張っている若手農家を紹介する場については、来年度新規参入・親元就農希望者を対象とした、市町村単位での産地ツアーを検討しているところであり、そこで若手農家との交流の機会を作り、農業のやりがいや苦勞を乗り越えた話等を話してもらおうよう考えている。</p>
9	サステナブルツーリズム	<p>○四国のレベルでの話題ではあるが、富裕層の方々にどのようなアピールをするかということも、注目されている。</p> <p>○その土地ならではの文化性の高いものや、サステナブルというのがカギになるようなので、富裕層の観光客の掘り起こしなどをしていながら、空港にプライベートジェットが着いたときや、プライベートの大型クルーザーが着いたときにはどうするかということも、準備しておかないといけないと思う。</p> <p>○いわゆるハイエンドの商品を開発していくということと、クルーズ船で来られた方々にリピーターになってもらうためには、どういうことをすればいいのかという点も、考えてはどうか。</p>	<p>○本年度中に、本県の代表的な観光素材を対象に、高知らしいサステナブルな要素を抽出、整理し、見える化を実施している。</p> <p>○その過程や結果の情報発信を行うことで、まずはサステナブルツーリズム推進に向けた県内観光事業者の機運醸成と県内外での「高知＝サステナブル」というイメージ醸成を図る。</p> <p>○来年度については、今年度の成果を踏まえ、高知版サステナブルツーリズムの目指すべき姿を検討するとともに、「らんまん」以降の県観光の戦略づくりに生かす。</p>
10	観光リカバリーキャンペーン	<p>○高知はリカバリーキャンペーンということで、交通費の助成を行っているが、これは全国で高知だけである。</p> <p>○この交通費に対する助成が、徐々に伝わりつつあり、高知の数字が高まっている。一番高いバリア、ハードルを越えるための後押しとして、リカバリーキャンペーンは非常に効いていると思われるし、まだ十分に認知されている状況までは至っていないと思われるため、ぜひとも、次年度も続けていただきたい。</p>	<p>○高知観光リカバリーキャンペーンの効果については、認識しており、当初の予定から延長(令和4年12月28日→令和5年1月31日)した。</p> <p>○来年度については、連続テレビ小説「らんまん」を活かした誘客戦略を実施することで、全国からの誘客につなげたいと考えている。</p>